

令和6年度 学力向上指導改善プラン

三田小学校長 足立 延也

学校教育目標		明日を切り拓く 意欲と力を身に付けた こころ豊かな三田っ子の育成 ～学びに向かう力・ゆたかな心・たくましい体を育む～		4月		2～3月	
推進主体		管理職と教育課程担当・兵庫型学習システム推進教員を中心に学力向上部会を設置		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
				成果となる目標		具体的な行動目標	
				(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習の時間や新出漢字を学習する時間、復習する時間などに、ミラシードなどのICT機器を用いることで、漢字の定着が図られている。 ○必要な情報を取り取る時間や読み取ったことを話し合う活動などを確保したことで、目的に応じて情報を見つけることが成果として表れている。 ◆授業の中で、ベアトクや質問をする時間などを確保し、話す・聞く活動を充実させた。その時は、話し手の考えと自分の考えを比較したり、話し手の意図を考えたりできる学習活動を設定する。また、目的に応じて、文章や図表などと結び付けて必要な情報を聞きと、自分の考えを作りまとめる活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学期末の漢字まどめのテストで8割以上の定着を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 読む・書く力の向上 ア 新出漢字の定着度を評価し、適宜漢字ドリルやプリントなどで補充する。 イ 語彙を増やす指導の工夫する。 ウ 文章を書く機会を充実と文章力向上に結び付け指導を継続する。 エ 学年の発達段階に応じた図書を学年フロアの学年図書室に入れるなどの環境整備を行うことで、読書習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりが主体的に学習を進める活動(漢字先生やPaadの活用など)を取り入れ、意欲的に取り組むことができた。 ○学期末の漢字まどめテストで8割以上の達成率をめざし、事前に練習プリント等で学習内容の再確認を行い実習に向けたことで、基礎基本が定着したと考える。 ○ワークシートなどの記録簿を文芸目を使いたり作本プリントを活用したりして、低学年から字数を意識して書く機会を確保した。 ○図書冊数と連携して、単元に関係する関連本を学年文庫として設置している。 ◆漢字のまどめテストで8割以上の達成率を定着したことが、支援を要する児童が一定数いるため、底上げを図っていく必要がある。 ◆自由読書の時間の確保について、検討を重ねる。 	B
		算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ○学習タイムでの計算練習やミラシードなどのICT機器の活用により、計算力の向上など継続した取り組みが成果となって表れている。 ○表やグラフ、文章などが様々に表現された情報を読み取ったり、関連付けたりする活動を積極的に取り入れたことが成果として表れている。 ◆図形についての理解を深めるために、黒板に掲示する図形の掲示物だけではなく、iPadなどのICT機器を効果的に活用し、豊かにイメージをもちながら図形を捉えている。 ◆今後も全校で継続して、めあてと振り返りを重視する授業構成に取り組みとともに、「主体的・対話的で深い学びのあふる授業」の在り方について継続して検討を進める。 				
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本的な漢字や計算の力が定着していない児童がいる。 ◆教科書内容に準拠した評価テストはできるが、数値や条件など問われ方が変わるとできなくなるなど、活用能力が育たない。 ◆応用問題は、順序立てて考えることと課題がある。 ◆学習直後は理解しているも、時間が経過すると忘れてしまっているなど、基礎知識が定着しにくい状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査における無解答率を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> C. 表現力の伸長と、協同的に学ぶ力や課題解決に向かう思考力の育成 キ 一人ひとりが自分の考えをもち、発言できる機会を充実する。 ク 正確に聴き取ることができる ケ ICTを活用することで、視覚支援を有効に使った授業を展開したり、考えや成果物を共有したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他学年へのプレゼンテーションなどを通して、児童一人ひとりが聞き手を意識して思考したり意欲的に取り組めたりすることができた。 ◆教員に対して、めあてを定める児童の数が増えたり、児童の思いや地域の力に導くよう挨拶するのが難しく感じたりするため、さらに徹底が必要である。 ◆話すことができるポイントが単元によって大きい(4年)わり算の計算などため、次の単元でも前の単元の復習が必要と考える。 		
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆文字数を限定したりキーワードを使ってめあてに沿ったふりかえりを書いたりする活動を確保することにより、学習のめあてや話し合いの学びを充実することで話す活動を取り入れているが、自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための語彙力や、話す力が十分ではない児童がいる。 ◆全ての児童が学ぶ意欲をもつことのできるユニバーサルな視点での学習支援(教室環境、資料提示の仕方、教材・教員の工夫など)のより一層の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価での「基礎基本の定着」の項目において、肯定的評価90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> D. 個に応じた支援と個別指導の充実 コ がんばりタイム・放課後学習の活用による個別支援を継続する。 ク 教員間や学校支援ボランティアとの連携を図る。 ク 達成感を得られる指導による学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○回答複数の指導体制によるきめ細やかな指導により、学習に対して前向きに粘り強く取り組む児童が増えたと感じる。 ○給食前学習が、がんばりタイム参加児童など、個別で学習を行う時間を確保したことで、基礎基本の定着が図られた。 ○児童の読書の読めやすさや、読書の楽しみや意欲が向上した。 ◆つまずきがあるポイントが単元によって大きい(4年)わり算の計算などため、次の単元でも前の単元の復習が必要と考える。 		
	慣学・力生向上に慣れる等の学状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆78%の児童が同じ時間に寝ていないが、起床時間は同じ時間に起きている児童が91.8%おり、睡眠時間が短い児童がいるため、生活振り返りカードや生徒指導を通して、「睡眠時間の大切さ」について啓発していく。 ◆先生はわからないことについてわかるまで教えてくれるが100%に対して、「困りごとや不安があるときに先生・学校に伝える大に相談できる」が73.4%である。このことから学習についての質問はできるが、それ以外の困りごとについては質問できていない児童が一定数いることがうかがえる。そのため、学習のこと以外でのなんでも話しやすいような学級の雰囲気をつくるとともに、授業改善や特別活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価児童アンケートでの「生活習慣」の項目において、肯定的評価85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 生活習慣の見直しや指導の継続 ア「あいさつ運動」を実施し、進んであいさつできる児童をめざす。 イ 学校にいらぬ禁止事項を徹底し、安全な環境を整える。 ウ 廊下の歩き方に対する指導を継続する。 エ 場下の歩き方に関するコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活指と学年・学級担任と連携した対応に努めている。 ○計画委員会を中心に、ホストや放送を使って廊下を歩く呼びかけを行った。 ◆教員に対して、めあてを定める児童の数が増えたり、児童の思いや地域の力に導くよう挨拶するのが難しく感じたりするため、さらに徹底が必要である。 ◆話すことができるポイントが単元によって大きい(4年)わり算の計算などため、次の単元でも前の単元の復習が必要と考える。 		
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あいさつ」「廊下を歩く」に関して、昨年度は定期的に児童会主催で取り組みを行った。その成果として、前向きに生活しようとする児童は増えたが、その取り組みが終わると少くすくす意欲が落ちてきているように感じた。自分たちで決めたことに対しては前向きに取り組むことができるが、定着までにはいかないように感じられる。 ◆児童自身は「自分から進んで掃除をしている」割合が高くなっている。しかし、まだまだ掃除中に関係のない話をしていたり、担当している場所を離れたらしている児童がいる。「自分で汚れを見つけて掃除する」ことや、「周りの手伝いをする」ことに関してはまだまだ指導が必要だと感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価児童・保護者アンケートでの「いじめ」「人権」の項目において、肯定評価80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> B. いじめ、不登校の未然防止 オ「学校にいらぬ禁止事項」にもとづき、迅速な情報共有による早期発見・早期対応のための取り組みを行う。 カ 生活アンケートに「いじめ」アンケートを中心とした児童理解を継続する。 キ 必要に応じて教育相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三人学地域部会で人権標語クラス代表作品を表彰。その後それらの作品を校内掲示し、啓発した。 ○毎月「生活アンケート」を実施し、学期末に「いじめ」アンケートを実施。児童の現状を把握し、課題がある場合は、学年や学年、個別での話し合いの時間を設けた。また、気になる児童の様子を生徒指導委員会によって共有し、未然防止に力を盡した。生徒指導を取り組む継続している。 ◆登校(帰)児童に対する対応を継続するとともに、「けいルーム」(SSR)の運営方法を継続して考える。 			
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ◆主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ◆ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見過しや目標を明確にして主体的に家庭学習を行う習慣の確立に向けて、段階的に継続的に指導していくことが必要である。 ◆学校でのタブレット使用に関しては、どの質問においても全国より使用率が大きく下がっている。また、家庭での学習目的でのタブレットの使用率も低く、情報活用能力の低下が危惧される。しかし、役に立つと考えている児童の割合はともども高く、今後前向きに使用していく。 ◆授業開始におけるICTの積極的活用は必須。Google、ミラシードなどを活用し、情報活用能力が児童に身につくように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の学校評価保護者アンケートでの「家庭学習」の項目において、肯定的な評価70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 学習の見直しや目標を明確にして学習する習慣の確立 ア 低学年の家庭学習の習慣や中学生の自主学習の習慣の定着を図る。 イ「八景中学校区家庭学習の手引き」や「三田小自主学習の手引き」を活用する。 ウ 自学コンテストや自学ノート展示コーナーなどを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主学習にこころ取り組んでいる児童を紹介するなど、見本やコツを提示した。 ○次年度に向けて、「Paadを活用した家庭学習・自主学習の手引き」を作成した。家庭でも児童が効果的に活用して「学びに向かう力」の育成を目指す。 ◆家庭学習・自主学習の手引きは、一年を通して上手な活用ができてきたため、4月当初に習慣を確立し、学年の発達段階に応じて定期的な手引きの見直しを行う。 		
研修内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「考える楽しさを実感する道徳の授業づくり～中心発問からの問い返して深い、対話を活性化させる～」という研究テーマに沿って、道徳の研究に取り組んでいる。子どもたちの道徳的価値感を育み、生き方の中で生かそうとする実践力を育てていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別「道徳教育」の研究を通して、豊かな人間性を育む道徳教育の推進を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> A. 対話を重視した授業の実施 ア 4月の対話教材「自分自身・教師・友だち」を大切にした授業を展開する。 イ 学校の教育力(学校支援ボランティア)を積極的に活用する。 ウ 学びが視覚的にわかる構造的な板書計画を継続する。 エ 多様な考え方や、議論ができる学級づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究推進担当を中心に、研究テーマ「考える楽しさを実感する道徳の授業づくり」の問い返しを深め、対話を活性化させるべく、1年に向けた授業実践を行った。過去5年間の研究実践を活用し、学年研を中心に3回の外部公開を実施しながら研究を進めた。 			
家庭・校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域等の状況 ○ 学校通信や学年通信(QRコード)を掲載し、積極的な情報発信に努めた。 ○ 学校支援ボランティアや地域のゲストティーチャーの協力を得て、学習の成果を上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価保護者アンケートでの「地域連携」の項目において、肯定的な評価70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 地域連携の充実 ア 学校運営協議会の計画的な実施による、外部評価を活用する。 イ 地域の教育力(学校支援ボランティア)を積極的に活用する。 ウ 中での定期的な更新、学年通信の配信など、地域・家庭への積極的な情報発信を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習、校外学習の見守り、図書の読み聞かせ、ゲストティーチャー、学習支援など、さまざまなボランティアさんに協力いただいた。 ○ 2月に地域ボランティアの方々を招待して「感謝の集い」を実施した。 ○ 学校運営協議会協賛事業実施(おひらき)。 ◆ 九九ボランティアなど、新たな活用方法を計画する。 			
小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八景中学校区で共通して指導すべき学習規律(「学びのスタンダード」)を明確にし、指導の徹底を継続して図っている。 ○ 目標に向かって粘り強く取り組む力の育成にむけ、「なわび」「読書」「自主学習」において、各校共通のチャレンジ目標を設定したり、家庭学習の取り組み方や内容を「学習の手引き」としてまとめ、共通した指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価保護者・児童アンケートでの「苦学手」の項目において、肯定的評価90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 目標に向かって粘り強く取り組む力の育成 ア 進んで「自学」、とんとん「読書」、元気に「運動」を継続する。 イ 児童が主体的に取り組む、つらがりを感じられる特別活動の充実を図る。 B. 保幼小中高交流を計画的に行い、校種間の円滑な接続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度も八景中学校区で学力・学習状況調査の合同分析を行い、小中一貫教育の連携を図ることができた。 ◆ 低学年についても自主学習を進めていくよう指導する。 			